

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

事務事業名	高齢者無料バス優待事業		担当部署	健康福祉部 長寿介護課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	老人福祉法 鳴門市高齢者等無料バス優待券の 交付等に関する条例		
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で 生きがいを感じるまちづくり	事業 期間	開始	昭和	49年度
政策(中項目)	1	ひとにやさしく健康で安らげるまち なんと			終期	未定
(小項目)		高齢者福祉				
施策	4	高齢者福祉の推進				
基本事業	1	生きがいと健康づくりの推進				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市に住民登録を行っている満70歳以上の者 (及び障害者手帳の交付を受けている者)						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	日常生活において、交通弱者である高齢者等の移動手段を確保することにより、閉じこもりの防止や社会活動参加の機会の増加を促し、高齢者等の生きがいや健康づくりに役立てる。						
事業計画	29年度に何を計画していたか	市内のバス路線を利用する、鳴門市に住民登録を行っている満70歳以上の者に対し無料バス優待券を交付する。また、利用状況の把握のため、7月と10月に利用者数の調査を行う。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位
		鳴門市高齢者等無料バス券申請件数	400	350	350	350	350	件

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	高齢者の移動手段を確保するため、市内バス路線における無料優待券を交付した。利用状況の把握のため、7月と10月に利用者数の調査を行った。申請窓口において、優待券の利用について対面によるアンケート調査を1月より実施した。					
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
	指標名	28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位
活動指標	1						
	2						
成果指標	鳴門市高齢者等無料バス券申請件数	325	363	-	-	-	件
	目標達成率(実績/目標)		103.7	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	0	0	0	7,045	7,045
		補正予算額	0	0	0	0	△ 1,857	△ 1,857
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	5,188	5,188
		決算額	0	0	0	0	5,188	5,188
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費
		0.0	0.2		498		5,686	

【鳴門市行政評価】

【事務事業名:高齢者無料バス優待事業】

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	7,040	5,188	6,068	6,068	6,068
	うち一般財源	7,040	5,188	6,068	6,068	6,068
	人件費	409	498	498	498	498
	総事業費	7,449	5,686	6,566	6,566	6,566

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		高齢者の移動手段の確保、外出機会の増加に寄与している。
	効率性	A:効率的だった		事務負担と利用実態把握の両面において、効率的な運用がなされている。
②成果に対する評価	指標名	鳴門市高齢者等無料バス券申請件数		無料バス優待券の交付枚数は、目標数を達成した。
	目標	350	件	
	実績	363	件	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		事業目的に対し、有効かつ効率的に実施されているため。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	現在の路線での実施となったのは平成25年度からであり、「第7期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」期間中の平成32年度までは、引き続き実態を把握したうえで、必要に応じ本事業の評価・検討を行う必要があると考えている。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	年2回の利用状況調査を行い事業の実施状況の把握等に努める。「第7期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」期間の初年度であるので、実態に即した事業の実施について検討する。			
	H31年度	同上			